

人形山

南砺市立平中学校
学校だより 第10号
令和5年2月24日 発行



ホームページ



五箇山の宝 ～豊かな自然と新たな命～

教頭 石田 雅人

五箇山には、四季折々の魅力にあふれた豊かな自然が、地域の宝として大切に遺されています。昨年11月に『地域の先達に学ぶ体験学習』で和紙の原料となる楮を採集した際に、少し足を延ばして渡原の大栃の木を見学しました。根元が一つで二本に分かれている大きな栃の木は、調べてみると、平村制百周年を記念して、平成元年に平村（現在は南砺市）の天然記念物に指定されたとのことでした。

並んで立つ中学生と比べてみれば、この木の大きさが一目で分かると思います。幹回り（外周）が7m以上あり、大木の周りで走り回る生徒が妖精のように見えました。ふと地面に目を向けると、足下には絨毯のようにふかふかの落ち葉が広がっています。この落ち葉が、やがて土となり、さらに五箇山を豊かにするのだらうと思いながらこの大木を眺めっていると、不思議と時間の流れがゆったりと感じられました。心が豊かになったようにさえ感じました。

この大木の迫力と包容力に魅了され、根元に落ちていた実をいくつも拾い、学校で発芽させてみました。暖かい職員室で、春と勘違いして芽を伸ばしてしまった幼木から、命の尊さや連続性、逞しさなどを感じました。遙か遠い昔からこの地に根を張る大木の子孫（宝）が、今、新たな命の営みを始めた瞬間に立ち会えたことが、とてもうれしく思えました。この幼木を眺めることで、慌ただしい毎日の中に、ほっと和む瞬間ができます。窓の外に広がる真っ白な世界と対照的な、若葉を広げた幼木に視線を移すと、春はすぐそこまできているのだと温かい気持ちになります。

雪解けの遅い五箇山に本物の春が訪れたとき、この幼木を山に帰すつもりです。平中学校の校舎のそばで、生徒の成長を見守ってもらうのがよいのか、母なる大木のそばがよいのか、いろいろな可能性を探りたいと思います。そして、子供たちには、これからも大切な五箇山の宝を守り、ずっと遺してほしいと願っています。



<大栃の木を前にして歓声をあげる生徒>



<葉をつけて春を待つ幼木>

<3月の主な行事予定>

2月28日（火）～3月2日（木）

1、2年期末考査

8日（水）～9日（木）

県立高校一般入試

12日（日） 富山県スキー選手権大会（SL競技）

13日（月） 予餞会

14日（火） 同窓会入会式、各種表彰式、卒業式予行

15日（水） 卒業証書授与式

16日（木） 県立高校合格発表

23日（木） 給食終了

24日（金） 修了式

25日（土）～31日（金） 学年末休業

28日（火） 離任式

※ 新学期の始業式は、4月6日（木）です。

☆新型コロナウイルス感染拡大状況により、予定が変更になることがあります。



来年度入学者への説明会 2月10日（金）



来年度入学予定の上平小学校6年生（16名）と保護者の皆様を対象に、入学者への説明会を実施しました。数学の体験授業の後、生徒会執行部の生徒が、中学校の学習の仕方や行事、部活動について、映像やクイズを交えながら説明しました。参加した6年生児童の笑顔が見られ、中学校生活に明るい見通しをもてたのではないかと思います。

来年度の入学式は、4月7日（金）11時より行います。4月に笑顔で中学校生活をスタートできるように、中学校では新しい仲間を迎える準備を進めています。



数学の体験授業



生徒会執行部による学校紹介



大会等の記録

第33回富山県中学校美術展 出展

「あとちょっと！」（切り絵） 相田 笑那（3年）

「地球皿」（工芸） 河口 拓夢（2年）

全国中学校スキー大会 2月7日（火）～10日（金） 野沢温泉村

○クロスカントリー競技

女子リレー 8位入賞 富山県（4走・浦田かなん）

女子3kmフリー 51位 浦田かなん（2年）

81位 細川 芽吹（1年）

女子3kmクラシカル 68位 細川 芽吹（1年）

71位 浦田かなん（2年）

男子5kmフリー 84位 大瀬 優貴（2年）

101位 宮崎 大輔（2年）

男子5kmクラシカル 98位 大瀬 優貴（2年）

105位 宮崎 大輔（2年）



○アルペン競技

女子GS 32位 道宗 真子（2年）

46位 相田 笑那（3年）

女子SL 27位 道宗 真子（2年）

32位 相田 笑那（3年）

☆田中幹夫 南砺市長さんへの提言☆（総合的な学習の時間 発表会）

2月20日（月）、2年生が総合的な学習の時間（ふるさと教育）に取り組んできた成果を発表しました。田中市長さん、松本教育長さんをはじめ、市議会議員の方、多くの学校の校長先生方にも参観していただき、『市長への提言』として発表しました。五箇山地域を「ずっと住み続ける」「離れても戻ってきたい・関わり続けたい」「誇れる」ふるさとにしていくという視点のもと、中学2年生のアイデアを盛り込んだ提案をしました。

この提案をまとめるにあたっては、地域で活躍されている方々と話し合う時間を設けて、相談にのっていただいたり、熱く地域の魅力を語っていただいたりしました。「それぞれの世代に合った企画があつていい」「地域の食材のよさを生かした料理づくりをしている」「参加している僕らが楽しい」などの言葉は、中学生の心にとっても響いたようです。この学習を通して、自分たちが住む地域のよさや魅力を再認識することができました。

五箇山での生活を自分たち自身が楽しみ、もっと『大好きなふるさと・五箇山』となるよう、実践を重ねていきたいと思っています。



